

(別紙 3)

## 造影剤使用についての説明(MRI)

あなたは今回MRI検査でガドリニウム造影剤を使用した造影MRI検査が必要であると考えられました。つきましてはガドリニウム造影剤を使用した造影検査の概要をご説明します。これからの説明で造影検査の必要性、合併症の可能性(リスク)をご理解され、造影検査を受けることをご承諾されましたら、「同意書」にご署名をお願いいたします。もちろん検査の途中で造影剤を使用する必要がないことが判明することもありますので、このような場合には造影剤は使用しません。

### MRI造影剤とはどのような薬で、どのような目的で使用するか

MRI用造影剤とはMRI検査の際に、静脈に注射し画像を見やすくして病気の診断を正確にするための薬です。造影剤は健康な方では 12 時間以内に大半が腎臓から排出されます。病気の種類によっては、その診断や進行の程度、治療方針の決定に造影剤を使用した検査が必要になります。以下のような合併症が一定の率で起きますが、造影MRIの必要性が合併症(リスク)を上回る場合には造影MRIが必要になります。

### 合併症(リスク)はどうか

- (1) 現在のところ合併症の発生を正確に予知する手段がありませんが、過去にMRI造影剤に対するアレルギー反応のあった方やぜんそくの方、薬剤や食物等でのアレルギー反応のある方は以下のような合併症の発生率が高くなります。
- (2) 約 0.3%で吐き気、嘔吐、気分不快、じんま疹などの皮疹、かゆみなどの軽度の合併症があります。
- (3) 1万人に1人から2人の割合で急激な血圧の低下によるショックや、のどの粘膜の腫れによる重い呼吸困難などの重篤な合併症がおき、ごくまれに死亡例も報告されています。
- (4) 過去にMRI造影剤に対するアレルギー反応のあった方やぜんそくの方、腎臓の機能が低下している方、てんかんやけいれんなどの既往のある方は、造影剤は使用できなかつたり、使用に制限が加わったりすることがありますので必ずお申し出ください。
- (5) なお、授乳中の方はお乳の中にこの薬が分泌されますので、造影剤注射後 24 時間は授乳を避けてください。
- (6) もし合併症が生じた場合は適切な処置をとります。ただちに病院に連絡し、検査を受けられた診療科、または救急外来を受診してください。

連絡先	水戸済生会総合病院 TEL 029-254-5151 休日・夜間 救急外来
-----	--